

比較政治行動論

担当者・野口 博史

研究室－Q6014

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

比較政治行動論とは実証的方法にもとづく政治学であり、諸政策を立案・決定する制度や過程などをあつかう研究領域である。

その内容は複数国を比較する方法以外に計量的手法、あるいは比較可能な方法による1カ国研究も含んでいる。地域や国家、中央政府・地方政府・政党などといった研究対象は自身の関心にあわせて決定してよい。

2. プロジェクト研究の進め方

原則として、3年次第2クォーターに開講される総合演習B（担当者－野口）を履修すること。ただしこの期間に短期留学等の計画によって履修が難しい場合は相談すること。

3年次第1から第3クォーターにおいては、各自の関心にあわせた基本文献講読および議論・卒業研究の主題決定についての討論が中心となるが、必要に応じて共通文献の購読をおこなうこともあり得る。

第4クォーターにおいては、多変量解析ソフトウェアをもちいて計量分析の代表的手法を演習により習得する。4年次においては報告および実習などを通じて卒業論文の執筆を指導する。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

コースは限定しないが、公共あるいは国際コース登録者が望ましい。前提科目はないが、政治学概論・政治行動論・行政学などが関連科目である。

4. プロジェクト研究開始までの準備

ドガン・ペラッシー『比較政治社会学』（芦書房、1983年）を読んでおくこと。（図書館所蔵・2F図書・学習用・311K//504）

5. その他

多変量解析の手法をもちいた政治分析は、政策評価や企業経営・人事管理など、幅広く応用可能な技術であるため、卒業論文などを通じて習得しておくことが望まれる。

6. プロジェクトアワー

日時・実施方法などは、9月に別途提示する。

7. 選考方法

プロジェクトアワーにかならず参加し、みずからの関心領域・卒業研究の主題に関する希望、もしあれば希望する進路などについて報告すること。選考はプロジェクトアワーの参加を前提として、志望理由書によりおこなう。

以上